


ケンシンの現況

2009 DISCLOSURE



ディスクロージャー誌

広島県信用組合

当組合の概要

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

| | |
|-------|--------------------|
| 本店所在地 | 広島市中区富士見町 1 番 17 号 |
| 設立 | 昭和 28 年 4 月 |
| 預金 | 1,859 億 7 百万円 |
| 貸出金 | 1,432 億 2 百万円 |
| 自己資本 | 99 億 58 百万円 |
| 店舗数 | 30 店舗 |
| 常勤役員数 | 245 名 |



経営理念

三愛主義

- 一、組合を愛す
- 一、組合員を愛す
- 一、自己を愛す

職員の行動理念

- 一、私達は、約束を守ります。
- 一、私達は、何事にも即時対応します。
- 一、私達は、目標完遂の意欲と責任をもって行動します。
- 一、私達は、自らが動く店舗であることを自覚し行動します。
- 一、私達は、お客様のご要望に応えます。
- 一、私達は、活気に満ちた明るい職場をつくります。

目次

【本編】

| | |
|---------------------------|----|
| 当組合の概要 | 1 |
| ごあいさつ | 2 |
| 業績トピックス | 3 |
| 主要計数の状況 | 4 |
| 地域とともに歩むケンシン | 5 |
| コンプライアンス(法令等遵守)体制・リスク管理体制 | 7 |
| 顧客保護管理体制 | 8 |
| 庶務概要 | 10 |
| 役員・職員の状況 | 10 |
| 中期経営計画・組織図 | 11 |
| ケンシンの歩み | 12 |
| 総代会の概要 | 13 |
| 業務のご案内(預金業務) | 14 |
| 業務のご案内(融資業務) | 15 |
| 業務のご案内(その他) | 16 |
| 主な手数料一覧 | 17 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| 【資料編】 | 18 |
| 貸借対照表 | 19 |
| 損益計算書 | 20 |
| 剰余金処分計算書 | 20 |
| 法定監査の状況 | 20 |
| 注記事項 | 21 |
| 損益の状況 | 23 |
| 営業の状況(預金業務・融資業務) | 24 |
| 営業の状況(融資業務) | 25 |
| 営業の状況(証券・為替業務) | 27 |
| 営業の状況(諸比率) | 27 |
| 自己資本比率規制(バーゼルII) | 28 |
| 信用リスクに関する事項 | 29 |
| 証券化エクスポージャーに関する事項 | 30 |
| 出資等エクスポージャーに関する事項 | 31 |
| 金利リスクに関する事項 | 31 |
| 当組合および子会社等の概況 | 32 |
| 自己資本の充実度に関する事項(連結) | 34 |
| 信用リスクに関する事項(連結) | 35 |
| 証券化エクスポージャー・出資等エクスポージャーに関する事項(連結) | 35 |
| 用語解説 | 36 |

【店舗一覧】

| | |
|-----------------------------|----|
| 店舗一覧・店舗外キャッシュサービスコーナー | 37 |
| ケンシンの店舗ネットワーク・キャッシュカード利用手数料 | 38 |

ごあいさつ

Top Message



皆さま方には、日頃より広島県信用組合に対しまして、ご愛顧とご支援を賜り誠にありがとうございます。
このたび、皆さまに当組合の業績や経営内容についてご理解を深めていただきたく、ディスクロージャー誌「ケンシンの現況 2009」を作成いたしました。インターネットホームページ（<http://www.hiroshima-kenshin.co.jp/>）掲載の取扱商品やサービス内容等のご案内と併せ、ぜひともご覧くださいますようお願い申し上げます。

さて、平成 20 年度の広島県経済は、米国における金融資本市場の混乱に端を発した世界的な景気後退や円高などを背景に、県内企業の業績も急激に悪化し、製造業を中心とした雇用削減の動きや消費者心理の冷え込みなど、県内の実体経済は厳しい状況で推移いたしました。

金融業界におきましては、金融システム改革等が進展するとともに、足もとでは、金融審議会において、「協同組織金融機関のあり方に関する検討」が進められるなど、地域金融をめぐる情勢は益々厳しさを増す一方、地域において果たすべき信用組合の役割は一層重要なものとなると思われまます。

このような状況下、当組合は、face to face のふれあいを大切にし、お客さまのニーズにお応えする金融サービスをスピーディーに提供することに努めるとともに、一層の経営の合理化と効率化を図るため、「中期経営計画（平成 18 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）」に基づき、諸施策を進めてまいりました。

その結果、中期経営計画の最終年度であります平成 20 年度の業績は、経常収益は 53 億 81 百万円、経常利益は 6 億 96 百万円の増収増益を果たすことができ、また、自己資本比率は前年比 0.91 ポイント上昇の 8.17%、貸出金に占める不良債権の割合は前年比 1.38 ポイント改善の 5.19% となり、着実に「回復」から「安定」に向け、経営を推し進めることができました。

本年 4 月からは、新たな決意のもとに、新「中期経営計画（平成 21 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）」をスタートいたしました。新計画では、「地域に存在感のある金融機関（広島の元気を創る信用組合）」を掲げ、「安定」から「成長」へ向けてのチャレンジを実践してまいります。

今後とも、コンプライアンスおよびリスク管理の徹底を図り、組合員の皆さまの多様なニーズに的確に対応するとともに、地域の皆さまに親しまれ、広島の元気を創る信用組合を目指すべく、役職員一同さらに努力を重ねてまいりますので、引き続き、ご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成 21 年 6 月

広島県信用組合
理事長 吉田 貞之

業績トピックス

預金

サンフレッチェ広島応援定期預金の発売をはじめ、他行 ATM 利用手数料の返戻、コンビニエンスストアとの ATM 利用提携など、地域に密着した営業活動を推進してまいりました。

その結果、期中 59 億 10 百万円増加の 1,859 億 7 百万円となりました。

貸出金

中小零細事業者および個人の皆さまの幅広い資金ニーズに迅速かつ安定的にお応えし、設備資金や運転資金など事業資金のご融資や、個人向けの各種ローンなど積極的に対応してまいりました。

その結果、期中 67 億 64 百万円増加の 1,432 億 2 百万円となりました。

損益

貸出金の増加に伴う収益向上や余資運用利息の増加等により、経常収益は、前年比 3 億 12 百万円増加の 53 億 81 百万円となりました。費用面では、市場金利上昇に伴う預金利息の増加、および経費や貸倒引当金の増加等により、経常費用は、前年比 2 億 46 百万円増加の 46 億 85 百万円となりました。

その結果、業務純益は、前年比 35 百万円減少の 18 億 59 百万円、実質的な収益力をあらわすコア業務純益は、前年比 63 百万円増加の 19 億 32 百万円、経常利益は、前年比 66 百万円増加の 6 億 96 百万円、当期純利益は、前年比 69 百万円増加の 6 億 52 百万円となりました。

組合員と出資金

出資金は、組合員数が期中 726 人増加して 52,688 人となり、普通出資金は 8 億 91 百万円増加の 56 億 30 百万円となりました。また、利益剰余金は、5 億 63 百万円増加の 24 億 89 百万円となりました。

その結果、純資産の部は、前年比 13 億 79 百万円増加の 93 億 60 百万円となり、自己資本比率は、単体ベースで前年比 0.91 ポイント上昇し 8.17%、連結ベースでは前年比 0.74 ポイント上昇し 8.05% となりました。

経営指標の推移

(金額単位：百万円)

| 区分 | 年度 | 平成 20 年度 | 平成 19 年度 | 平成 18 年度 | 平成 17 年度 | 平成 16 年度 |
|-------------|----|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 経常収益 | | 5,381 | 5,068 | 4,765 | 4,287 | 4,083 |
| 業務純益 | | 1,859 | 1,894 | 1,463 | 1,436 | 1,564 |
| コア業務純益 | | 1,932 | 1,869 | 1,800 | 1,668 | 1,470 |
| 経常利益 | | 696 | 630 | 542 | 606 | 458 |
| 当期純利益 | | 652 | 582 | 502 | 514 | 391 |
| 預金積金残高 | | 185,907 | 179,997 | 173,469 | 169,449 | 163,063 |
| 貸出金残高 | | 143,202 | 136,438 | 131,209 | 125,377 | 117,226 |
| 有価証券残高 | | 22,398 | 20,260 | 21,465 | 21,806 | 21,593 |
| 総資産額 | | 198,033 | 190,458 | 182,810 | 177,857 | 170,523 |
| 純資産額 | | 9,272 | 7,891 | 6,996 | 6,183 | 5,394 |
| 自己資本比率（単体） | | 8.17% | 7.26% | 7.00% | 6.47% | 6.06% |
| 組合員数 | | 52,688 人 | 51,962 人 | 51,464 人 | 49,829 人 | 48,553 人 |
| 普通出資総額 | | 5,630 | 4,738 | 4,349 | 3,971 | 3,539 |
| 普通出資総口数 | | 11,260,292 口 | 9,476,980 口 | 8,698,889 口 | 7,942,039 口 | 7,078,549 口 |
| 普通出資に対する配当金 | | 75 | 67 | 61 | 56 | 32 |
| 優先出資総額 | | 360 | 360 | 360 | 360 | 360 |
| 優先出資総口数 | | 480,000 口 | 480,000 口 | 480,000 口 | 480,000 口 | 480,000 口 |
| 優先出資に対する配当金 | | 12 | 21 | 21 | 21 | 21 |
| 職員数 | | 238 人 | 232 人 | 224 人 | 222 人 | 227 人 |

(注) 1 残高計数は、期末日現在のものであり、総資産額には、債務保証見返は含んでおりません。
2 純資産額は、純資産の部から配当金等の外部流出額を除いております。

主要計数の状況

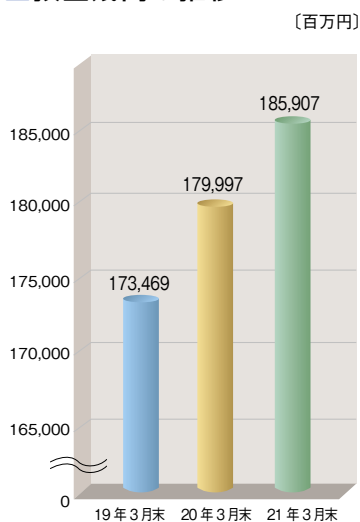
業績

平成 20 年度においては、「中期経営計画」に基づき、組合員・お取引先の皆さまのニーズにお応えする商品・金融サービスを迅速にご提供するとともに、将来に向けた安定収益の確保と財務の健全性強化を図るため、諸施策を着実に進めてまいりました。

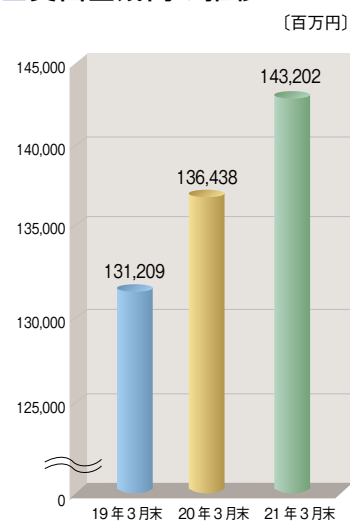
その結果、預金残高は、前年比 59 億 10 百万円増加の 1,859 億 7 百万円、貸出金残高は、67 億 64 百万円増加の 1,432 億 2 百万円となりました。

また、コア業務純益（注）は、前年比 63 百万円増加の 19 億 32 百万円を計上するとともに、経常利益は、前年比 66 百万円増加の 6 億 96 百万円、当期純利益は、69 百万円増加の 6 億 52 百万円となりました。なお、自己資本比率は、単体ベースで前年比 0.91 ポイント上昇し 8.17% となりました。

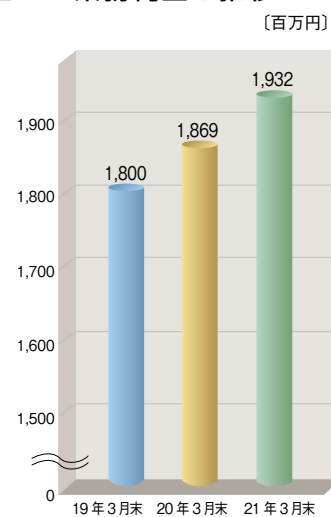
■ 預金残高の推移



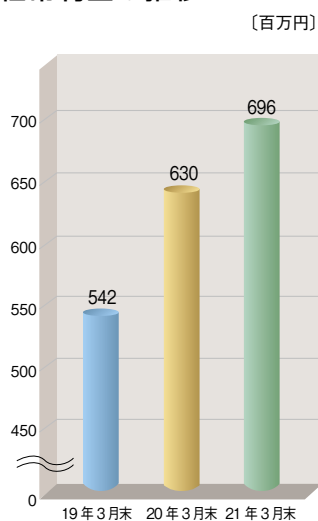
■ 貸出金残高の推移



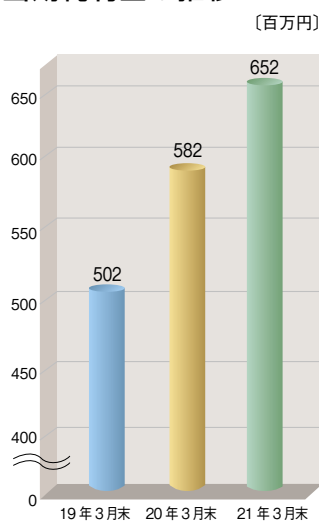
■ コア業務純益の推移



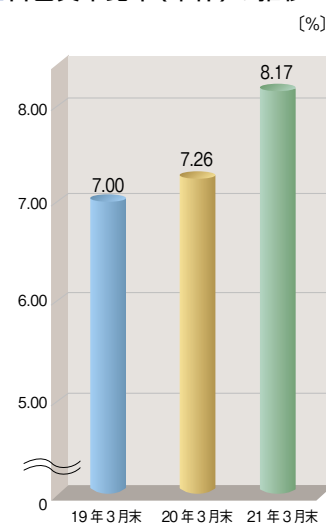
■ 経常利益の推移



■ 当期純利益の推移



■ 自己資本比率(単体)の推移



（注）「コア業務純益」とは、預金・貸出金・為替業務など金融機関本来の業務から生まれる利益である業務純益から、「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券の償還・売却損益」を控除したもので、より純粋な金融機関本来の業務による利益をあらわしております。